

令和7年度 仲西こども園 自己評価結果

実施月：2026年2月

評価の目的

就学前の子供に関する教育保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づいて評価を行い、教育及び保育の質の向上に努めていくことを目的とする。

【評価方法】 普段の保育を振り返りながら、次の各項目について保育教諭自身が4段階で評価する

- 4: 理想的な状態で実施できている
- 3: ほぼ独力でできている: 未経験、またはこれから習得する
- 2: 周囲にフォローを貰いながらできている
- 1: 未経験、またはこれから習得する

No.	評価項目	スコア	所見・取り組み状況
1	基本的理念と社会的責任	3.27	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いや意図を汲み取り、否定的な言葉を避け、受容的・肯定的な応答を心がけている。トラブルの際も、一方的に決めつけるのではなく、双方の言い分を丁寧に聞き、子ども自身が納得して解決できるように見守る姿勢を意識している。さらなる質の向上のため、職員同士で保育場を振り返る時間を設けていく。 ・子どもたちが自分のやりたい遊びを自ら選べるよう保育の充実や、玩具を出し入れしやすい配置にするなどの環境構成を工夫している。また、子どもたちの興味の移り変わりに合わせ、さらに柔軟に環境を変化させていけるよう、職員間で共有していく。
1 - 1	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを日々保育を行っている	3	
1 - 2	子どもの人格尊重を意識して日々保育を行っている	3	
1 - 3	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てよう日々保育をしている	3	
1 - 4	性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育を行っている	4	
1 - 5	子どもの特性や発達過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助を日々行っている	3	
1 - 6	子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を日々行っている	3	
1 - 7	子どもの生活リズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整えている	4	
1 - 8	個人情報の取り扱い方をマニュアル等により理解し、適切に対応している	4	
1 - 9	保護者の苦情に対する対応、対策をマニュアル等により理解し、発生時は適切に対応している	3	
1 - 10	園の教育・保育理念（目標）を理解している	3	
1 - 11	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と園の目標・計画の繋がりを理解し、保育を行っている	3	
2	保育の配慮事項	3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のクラスの発達段階の把握にとどまってしまう、就学を見据えた長期的な視点が不足していた。今後は、年長児の目標など再確認し、現在の活動内容がどのような学びに繋がるかを意識した援助を行っていく。
2 - 1	子どものその時々気持ちを受けとめて保育を行うよう日々配慮している	3	
2 - 2	登園時に、子どもの発育や発達の状況、体の状態を細かく観察している	4	
2 - 3	入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	2	
2 - 4	園内や保育室など、子どもが安心できる雰囲気を作ることを心掛けて環境を構成している	4	
2 - 5	一人一人の子どもの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	3	
2 - 6	一人一人の子どもの思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している	3	

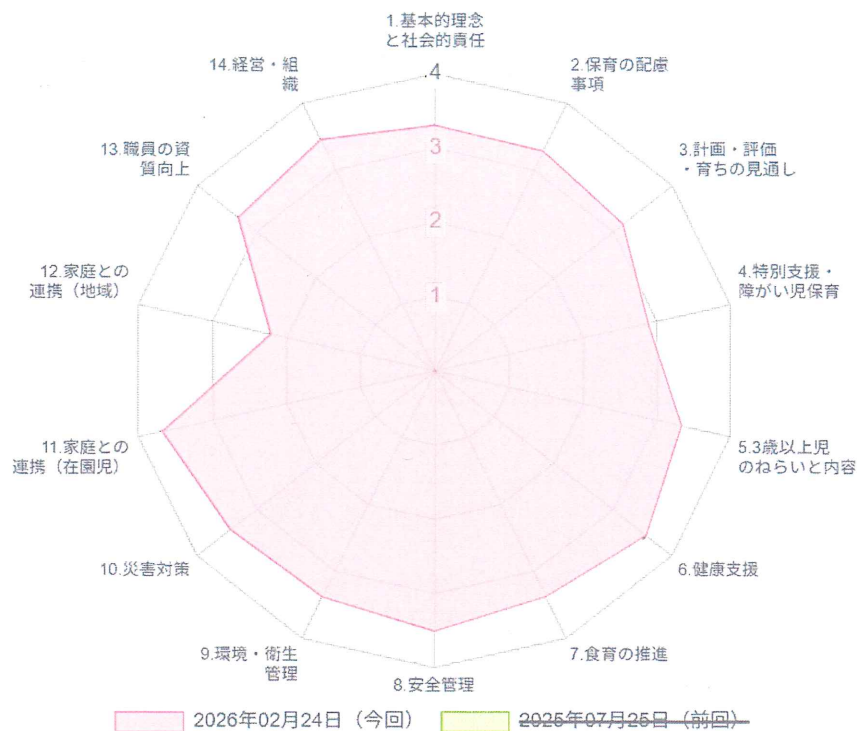
2 - 7	子どもに分かりやすい言葉で優しく、穏やかに、目を見て話しかけている	3	
3	計画・評価・育ちの見通し	3	・計画に基づいた保育は概ね実施できているが、自己評価結果を具体的な改善行動に繋げる点に課題がある。
3 - 1	年間指導計画により、長期的な見通しをもち、職員で共有し、日々保育を行っている	3	
3 - 2	日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取り指導計画や自己評価に反映させている	3	
3 - 3	保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	4	
3 - 4	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案を作成している	3	
3 - 5	子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	3	
3 - 6	チェックリストによる自己評価を実施し、長所や課題を発見し、改善に努めている	2	
4	特別支援・障がい児保育	3.17	・個別の指導計画の作成や保護者対応は、担任や特別支援コーディネーター担当者が行っているが園全体での具体的な支援方針の共有や、全職員を対象とした専門的な研修機会の確保は課題である。 ・保護者との信頼関係構築を最優先とし、定期的な面談だけでなく送迎時の丁寧な情報共有を徹底している。特に就学支援においては、小学校や関係機関との円滑な引継ぎを行っている。
4 - 1	特別支援・障がい児保育について、園全体で話し合う、情報共有する場がある	2	
4 - 2	特別支援の担当者に限らず、研修等を通じてそれら保育に必要な知識を得ている	2	
4 - 3	関係機関などから相談や助言を必要に応じて受けている	3	
4 - 4	障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設け、信頼関係の構築に努めている	4	
4 - 5	障がいのある子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている	4	
4 - 6	障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向に関しての情報提供や相談に応じている	4	
5	3歳以上児のねらいと内容	3.5	・生活面は一つひとつの動作を丁寧に行えるよう声掛けをし、できた時に具体的にほめたりすることで、自信をもって取り組めるように配慮している。 ・活動の中で、ルールを守ることやみんながたのしく遊べることを繰り返し伝えている。トラブルが起きた際はすぐに仲裁するのではなく、互いの言い分を聞き、気持ちを代弁することで、自分の感情を整理できるように配慮する。少しずつ相手の気持ちにも気づき、譲り合ったりしていく中で、子どもたち自身で折り合いをつけようとする姿が見られるようになる。
5 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう、目標やねらいに基づいて保育している	4	
5 - 2	十分に体を動かさず気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している	3	
5 - 3	園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように声掛け、働きかけを行っている	4	
5 - 4	友達と遊びを一緒に工夫、協力したり、共に達成感が味わえるように声掛け、働きかけを行っている	4	
5 - 5	良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように声掛け、働きかけを行っている	4	
5 - 6	友達と生活する中でルールの重要性に気づき、それらを守るように声掛け、働きかけを行っている	4	
5 - 7	生活や遊びの中で、意欲、自信、自己肯定感を持てるように声掛け、働きかけを行っている	3	
5 - 8	友達との関わりを通して、相手を思いやる気持ちを持てるように声掛け、働きかけを行っている	4	
5 - 9	園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている	4	
5 - 10	伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている	3	

5 - 11	人の話しを聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている	3	
5 - 12	絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくような活動を行っている	3	
5 - 13	子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、働きかけを行っている	3	
5 - 14	音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったりする楽しさを味わう機会を作っている	3	
6	健康支援	4	
6 - 1	感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している	4	<ul style="list-style-type: none"> ・園の感染症マニュアルに基づき、職員間での徹底した手洗い・消毒を習慣化している。 ・与薬依頼書はチェック体制を徹底し、誤薬防止に努めている。 ・アレルギー既往症（熱性けいれん等）のある園児については、全職員で情報を共有している。
6 - 2	感染症発生時に、発生状況や感染予防策についてお知らせやお便りで保護者に通知している	4	
6 - 3	子どもの健康情報を共有し、既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に周知している	4	
6 - 4	保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を理解し、適切な処置をしている	4	
6 - 5	応急処置用品の使用法を理解し、適切な処置をしている	4	
7	食育の推進	3.4	
7 - 1	全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育計画が提供されている	3	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナー指導や、食への興味関心を促す働きかけは日常的に行っており、子どもたちの意欲的な姿につながっている。一方で、食育活動自体の振り返りや具体的な評価・改善の仕組みが十分ではない。今後は話し合いなどを行い、次回の計画に反映させる体制を整えていきたい。
7 - 2	身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	4	
7 - 3	食育の活動内容や考え方について、評価や改善を行っている	2	
7 - 4	食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている	4	
7 - 5	自身が感謝の気持ちを持って食事をするよう努めている	4	
8	安全管理	3.8	
8 - 1	ヒヤリハットを常に意識して行動し、定期的に報告、共有をしている	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、重大事故が発生しやすい場面の把握や、不審対策の訓練は着実に実施できており、安全意識の高まりが確認できた。今後は、ヒヤリハットの報告など、些細な気づきでも、職員間で共有し合える環境を整える。
8 - 2	ヒヤリハットマップ等を作成し、園内で事故の起きやすい場所を把握している	4	
8 - 3	睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	4	
8 - 4	園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検している	4	
8 - 5	外部からの侵入に対し、マニュアル等を通じて、求められる行動（職員間の合図の共有等）を理解し、定期的に訓練を行っている	4	
9	環境・衛生管理	3	
9 - 1	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう十分な対応が出来ている	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃と環境整備を全職員で行っており、今後も心地よく安全な環境づくりを継続していく。
9 - 2	園内に子どもたちが季節感を味わえるような掲示や飾りつけの工夫をしている。	3	
9 - 3	子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	3	

9 - 4	一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックしている	3	
10	災害対策	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施や経路の把握については、高い意識で取り組んでいる。 ・ハザードマップに基づいたリスクの再確認を行ったり、周辺環境の再点検に努める
10 - 1	消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	3	
10 - 2	園の立地や地域に応じたさまざまな災害を想定した避難訓練を行っている	4	
10 - 3	保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している	3	
10 - 4	ハザードマップを把握している	3	
10 - 5	地震や豪雨の際の園から避難場所への避難経路を把握している	4	
11	家庭との連携（在園児）	4	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止と早期発見に努めるために一人ひとり視診を徹底し、関係機関との連携体制を整備している。 ・送迎時の対話や面談を通して保護者の意向など汲み取る体制を構築している。 ・アンケート結果を園運営の改善に反映させ、満足度向上に努めている。
11 - 1	保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	4	
11 - 2	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	4	
11 - 3	送迎の際の対話や連絡帳への記載等の日常に加え、個別面談や別機会を設けている	4	
11 - 4	あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	4	
11 - 5	利用者満足の向上を目的とする仕組み（保護者評価、アンケートなど）を整備し、取組を行っている	4	
11 - 6	虐待の疑いのある子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に紹介、通告する体制が整っている	4	
12	家庭との連携（地域）	2	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園として、地域の子育て世代が交流しやすい環境づくりに努め、今後も周知できる取り組みを引き続き行っていく。
12 - 1	園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	2	
12 - 2	地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	2	
12 - 3	地域社会との交流や地域への発信を行い、園での取り組み内容を周知している	2	
13	職員の資質向上	3.43	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修や会議への積極的に参加し職員との連携については、高い意識を持って取り組んでいる。 ・園外研修への参加や自己課題の解決については、日々の業務にとどまっている側面があるため、外部の知見を取り入れ、上司や同僚からのアドバイスをもらいながら保育の質のさらなる向上を目指す。
13 - 1	園内で行われる研修や会議に積極的に参加し、資質向上を図っている	4	
13 - 2	園外で行われる研修に自発的に参加し、速やかに研修報告を行っている	3	
13 - 3	個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3	
13 - 4	自身の保育実践について、自ら上司や同僚のアドバイスをもらうよう努め、成長しようとしている	3	
13 - 5	園で決定した方針が自身の意見と違うときに、直接その理由を聞いたり、広い視野を持って前向きに考えるようにしている	3	
13 - 6	保育所の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないとされていることを理解している。	4	
13 - 7	申し送りや情報共有など、非常勤職員と連携を取るための取り組みがなされている。	4	

14	経営・組織	3.2	・組織の一員としての自覚を持ち、運営に積極的に関与する姿勢を強めていきたい。
14 - 1	職務内容が明確で共同できる体制になっている	4	
14 - 2	係や仕事の分担・割当ては適切である	3	
14 - 3	職員一人ひとりが組織の中の一員である事や位置づけを自覚し、組織全体の運営に関わっている	3	
14 - 4	自分の職務に積極的に取り組み、職務以外の事にも進んで取り組んでいる	3	
14 - 5	上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる	3	

スコア比較 (大項目別)



【総合評価】

現場での実務面(保育内容)や安全管理・環境・衛生面には気を配り、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを徹底し、即戦力として安定した成果が見られる。

今後は高い専門性を活かしつつ、項目1や14にあるような「園の理念のさらなる体現」や「組織運営への積極的な関り」を深めることで、リーダー層へのステップアップへ繋げていきたい。